本大會に於ける大會新記錄

◎印は前年
○印は本年

二百米リレー○彦根中學チーム　二分四秒二
百米自由型◎船波　小松商　一分六秒三
二百米自由◎船波　小松商　二分三一秒六
四百米自由○目加田　彦中　五分四六秒二
八百米自由○目加田　彦中　十二分十三秒八
百米背泳○井口　彦中　一分十九秒八
二百米平泳◎河合　金一中　三分十二秒六
八百米リレー○彦根中學チーム　十一分九秒六

戰は終つた。しかし我々は幸福であつた。我々は喜ぶ事も、涙を流す事も忘れ、唯茫然として立すくみ、カツプを見て初めて我部は六七點で優勝したのだと云ふ强い或物が頭に浮ぶばかりだ。我々は無言で感慨無量だ。我々は唯「終に成した！」「花を咲せ實を結んだ」と言を繰歸すばかりだ。時が立つにつれてあの苦かつた合宿練習と、大會狀況が目の前にちらつくのみだ。

我々は之の優勝について考へるに六月以來風の日も雨の日も一日も休まず、熱心に御指導と監督に御當り下さつた部長先生を初め理事の先生に感謝をさゝげます。

次に選手一同の合宿練習中の協同一致、自ら進んで練習し（之の練習中に十六回本校新記錄を作り本年度新記錄は二五度の多數）た事は監督先生も眞に感心せられ我々も今から思ふとあれ程熱心な練習は初めてでした。

彦根高商の水泳大會は故障者多く棄權す。本年の戰は終つた。しかし我々は愉快だ。がしかし之に滿足せず進んで其上へと努力します。

後記

今年は大分滿足に近い結果を得る事が出來た。しかし之の得點の十分の七は四年生以下の選手により獲得せられ、金澤の優勝もその力となつた大部分が四年生の選手です。

期待せられよ來年の活躍こそは！。

然るに悲しい事がある。之は部員不足だ。諸君よ！　日本の國技は競泳だ。日本は世界競泳界覇者です。故に我國の國技たる競泳に强い事は他校に對する我校の一大誇では有ませんか。

故に赤鬼魂所有者たる諸君に之の苦を訴へ、水泳部入部と熱ある練習によつて我校を滿足せられん事を希望致します。

しかも來年は水泳部創立來の黃金時代を出現せんとして居る時です。闘將森、井口、目加田、新進藤闘、山田花形大谷皆健在にして何等不安はない四年でも三年でも觀迎します練習期間も六月——九月と云ふ四ケ月の短さです。

左に彦根中學水泳部創立來のベストタイムを示します。　○印は本年作つたもの

自由型　プはプール

二五米　○森　十二秒五
　　杉本　十二秒五
五十米　林　二八秒九
百　米　○森　一分八秒○

二百米　○森　二分三二秒三
四百米　森　五分三九秒六（二五米プ）
同　○目加田　五分四六秒二
八百米　○目加田　十二分十三秒八
千五百米　森　二五分四二秒六

背泳

二五米　○井口　十六秒二
五十米　○井口　三六秒九
百　米　○井口　一分十七秒七
二百米　○井口　二分五十秒一
四百米　○井口　六分四二秒

平泳

二五米　○杉本　十七秒○
五十米　中村　四十秒○
百　米　藤本　一分二七秒○
二百米　藤本　三分十二秒四（二五米）
同　喜久川　三分十四秒一
四百米　藤本　七分五秒

リレー

二百米　○目加田、井口、杉本、森　二分三三秒三
八百米　杉本、井口、森、林　十分四九秒六（二五米プ）
同　○目加田、井口、杉本、森　十分五六秒九
三百米メドレリレー（背泳、平泳、自由）
杉本、藤本、林　四分四秒○

以上

學藝部々報

昭和七年も既に殘り少い。辯論シーズンも過ぎた樣だ。寂寥！　學友諸君は今年の辯論をどう思ふ？　僕等學藝部員はもとよりベストを盡した積りだが。

さて、我等部員が更生の意氣を以て學熱、殊に辯論方面を開設して以來既に二年、今や試練の一年は經過して、活躍せん哉、伸びん哉の時節は到來したのである。見よ今年の物凄かつた奮闘を！

我部は今春近藤松宮の二兄と至寶古川君及び闘將三輪君を送り出した。然し尙古將小林北森の兩君殘る有り、加ふるに新たに和田君を迎へて其の奮勢急に倍するの景況を呈した

然うして先輩諸兄の「辯論部を更生せよ」のスローガンを守り立て押立て、今や忘れられんとする彦中健兒に、湖國民に赤鬼魂の眞髓を示さんとしたのであつた。往年の彦根中學校に正氣を吹込みつゝあつた辯論部を引受けて立つ我等の目的は、一に懸つて「赤鬼魂」の再吟味に有つた。後輩達よ！來年はきつと開け、そして憂校の叫びを擧げよ。時代は流れる！何時迄三十五萬石の城下町ですと誇つて居られるか。

諸君は丁度學藝部更生以來三代目に當る。「三代目が大切」の古諺を忘れない樣にして我が辯論史上に花を添へられたい。

今年辯論方面に直接、間接に携はつて痛感したことを三四列記して參考に供せんと思ふ。あながち無駄なことでも有るまい。

一、活辯口調は最早や演說界より除外せられた。大言壯語必ずしも聽集を惑するものでは無い。

二、音聲豐富にして且明瞭なること。餘り大きな聲は却て演說の興味を殺ぐ懼れがある。

三、抽象的論を廢して具体的論に渡ること絕對に必要である。

四、演說內容に普遍性を有すること。

五、演說內容、殊に例證には實生活に即したものを取入れること。

等である。

今年は遂に四年生以下より闘士を受ることが出來なかつた。之は今考へると大いなる失敗の樣にも思へる。然し諸君の中には多士濟々である。必ずや典型的論者が多數輩出して大成出來なかつた我等の後を引繼いで一歩々々確實に地盤を開拓して行つて呉れるものと思ふ。又希望する、諸君よ、今年の不成績を許せ、我等はベストを盡くして破れたのだ。

昭和七年十二月二十二日夜

夏川文二郎記

小林　弘

「雄辯は銀なり。沈默は金なり」の格言があまりにも尊ばれすぎてゐる。

先輩の人の努力の後をついで自分はやらうとしたが、自分にそれだけの資格が無かつたことを發見してやめてしまつたのである。

許せ。六百の健兒!! 向上の機にめぐまれたる我が雄辯部の前途に一暗影を投じた事を去る。

×

ゆきととびと湖と城！　冬のひこねを我は

雜　錄

本校日誌抄

○一　月

一　日　金曜　新年拜賀式

八　日　金曜　始業式

九　日　土曜　武道寒稽古開始

十一日　月曜　第二時、第三時全校職員生徒、聯合祝賀會（招魂社）に參列す。

勅諭御下賜五十年記念式

皇軍錦州入城祝賀會

十四日　木曜　本校運動場に於て鳩山文相の町內中等學校生徒に對する訓示あり

十七日　日曜　武道寒稽古終了

十八日　月曜　第六時限に本校卒業生仙波久良氏の滿蒙事情に關する講演あり

廿四日　日曜　花澤書記令弟花澤飛行大尉打虎山附近の匪賊掃蕩中不幸にも敵彈命中し名譽の戰死を遂げらる

廿七日　水曜　全校野外演習學行

廿八日　木曜　內務部長御來校

○二　月

三　日　水曜　第二時限後故花澤少佐遺骨を全校職員生徒驛頭に迎ふ

五　日　金曜　第五時限に全校職員生徒故花澤少佐の町葬に參列す

新庄本縣知事御來校

九　日　火曜　第五時限に五年生裁判所を見學す

十一日　木曜　紀元節拜賀式學行

十三日　土曜　同窓會主催本校出身小學校奉職者懇談會開催

十五日　月曜　晝食時第五學年生徒一同記念寫眞撮影

十九日　金曜　第五學年考査開始

二十四日　水曜　東京高師創立六十年記念式に賜はりし勅語

の郡内傳達式講堂にて擧行さる
第五學年考査終了
第五學年生徒校旗に告別の分列式、同卒業豫餞送別會
二十五日　木曜　講堂に於て昨日傳達の勅語奉讀式擧行
二十六日　金曜　第一第二校時に西田天香師の講話あり
二十七日　土曜　第四學年學年末考査開始

○三　月

三　日　木曜　第四學年考査終了。同學年終業式擧行
七　日　月曜　本校第四十四回卒業式擧行
十　日　木曜　陸軍記念日、朝一時間狩野教官の講話あり
十時より全校多賀神社へ參拜す
十一日　金曜　第三學年以下本日より考査開始
十二日　土曜　午後學務部長御來校
十六日　水曜　第三學年以下考査終了、終業式擧行
二十四日　木曜　當町出身の田部・小杉兩氏の御遺骨御歸還につき、午後四時より職員及び生徒約四十名にて驛頭に之を迎ふ
二十六日　土曜　入學考査施行。午後一時より故田部上等兵の町葬に就き、職員及び町内生徒百十名會葬す
二十七日　日曜　入學許可者發表

○四　月

八　日　金曜　始業式擧行。前田教諭告別式、千原・渡邊兩教諭の新任式あり。
各組正副級長及校友會役員の選擧、午後一時より入學式擧行
九　日　土曜　朝禮時に組長副組長任命。新舊生徒對面式擧行
十六日　土曜　狩野教官上海軍事視察のため出發さる
十八日　月曜　寮長任命さる
二十一日　木曜　五年四年身体檢査
二十八日　木曜　第五學年父兄會開催
二十九日　金曜　天長節拜賀式擧行
三十日　土曜　招魂社祭典につき第四時限に全校職員生徒參拜す

○五　月

一　日　日曜　本校創立記念式、端艇大會擧行
三　日　火曜　第四學年修學旅行隊、夜九時四十五分上り列車にて出發

四　日　水曜　木村督學官御來校、第五時限に巖谷小波先生の御講演あり
五　日　木曜　東京文理科大學學長大瀨甚太郎先生御來校
第二時限に講堂に於て一場の訓示あり。午後三時半より同學長の當地方教育者のための講演あり
第五時・第六時限に二年・三年の身体檢査施行
九　日　月曜　第一時・第二時限に狩野教官の上海戰跡視察談を聞く
十　日　火曜　第四學年修學旅行隊、午後七時四十四分無事歸着す
十三日　金曜　第五學年八日市・愛知川方面に於て野外演習
二十　日　金曜　第三學年高宮河原にて野外演習
二十一日　土曜　藤下教諭告別式擧行
二十三日　月曜　第四學年父兄會開催。出征軍人遺家族奉仕週間本日より始まる
朝禮時に海軍記念日につきての校長先生の訓示あり
二十七日　金曜　臨時考査開始
二十八日　土曜　臨時考査開始

○六　月

一　日　水曜　臨時考査終了。校長先生、狩野教官敦賀聯隊慰靈祭參列のため出張さる
三　日　金曜　縣參事會員六名及縣庶務課員一名御來校
四　日　土曜　御親閲記念日。全校職員生徒謹んで皇居を遙拜す。校長先生の訓示あり
六　日　月曜　午後四時、警察部長御來校
九　日　木曜　第四學年野外教練實施
十　日　金曜　朝禮時に校長先生より時の記念日につきての訓話あり
十八日　土曜　朝禮時校長先生より愛國號中學生號飛行機命名式に就き訓示あり
二十　日　月曜　本縣第二部教練体操科研究會本校にて開催
二十五日　土曜　全校實力考査施行
二十八日　火曜　連絡會開催

○七　月

五　日　火曜　學期末考査開始
九　日　土曜　第一學期末考査終了
十一日　月曜　本日より短縮授業開始。水泳練習開始

十五日　金曜　第三學年野外演習
十八日　月曜　永井學務部長御來校。彦根体育協會主催水泳大會に優勝せる水泳部の優勝カップの納式擧行
二十一日　木曜　水泳練習終了同上納式擧行
二十三日　土曜　閱團分列式終業式擧行

○九　月

一　日　木曜　始業式擧行
二　日　金曜　朝禮時第一學年級長・副級長任命式及び野球部優勝旗納式擧行
五　日　月曜　朝禮時、金澤四高主催近府縣中等學校水泳大會に於て獲得せる水泳部選手の優勝カップ納式施行
十二日　月曜　伊藤本縣知事御來校
十四日　水曜　町田教諭三週間勤務演習のため太刀洗飛行聯隊に入隊
十五日　木曜　滿洲國承認日につき此が訓話をなす
十六日　金曜　第六時限より控室にて縣農會主催の米俵包裝競技行はる
十八日　日曜　滿洲事變滿一周年記念日第一、二、三學年警備演習。第四、五學年、聯合演習參加
二十二日　木曜　第六時限に全校招魂社參拜
二十六日　月曜　第五時、第六時限に同文書院馬場教授の御講演あり

○十　月

五　日　水曜　講堂に於て縣教化聯盟主催の講習會あり
六　日　木曜　朝禮時御親閲に關する訓示あり
九　日　日曜　陸上大運動會
十四日　金曜　第三學年野外演習
十六日　日曜　講堂に於て滋賀縣山林大會開催
十七日　月曜　午後一時より同窓會大會開催
十九日　水曜　第一學年野外演習
二十日　木曜　慰靈祭擧行に付第四時限に全校招魂社參拜
二十六日　水曜　臨時考査開始
二十九日　土曜　同上終了
三十日　日曜　教育勅語奉讀式擧行。御座所に於て、教育者に賜はりし勅語の奉讀式施行
三十一日　月曜　朝禮時校長先生より圖書館週間につきての訓示あり。第一時、第二時授業中トラホーム檢査を行ふ

○十　一　月

一　日　火曜　圖書館週間本日より始まる。
全縣御親閲豫行演習、八日市飛行場に於て施行。本校參加生出場
三　日　木曜　明治節拜賀式施行。式後全校合同体操を行ふ
四　日　金曜　本日より體力基本檢査を開始す
八　日　火曜　第二學年野外演習
十　日　木曜　聖上陛下大演習の御爲め、大阪へ行幸し給ふ。御召列車、午後二時五十三分御通過し給ふ。全校職員生徒恭しく奉迎申し上ぐ
十三日　日曜　行幸記念式。式後校内武道大會
十六日　水曜　御親閲拜受日。四、五年生二十九名大阪城東練兵場に於て御親閲拜受。殘留生は第六時限に校庭に於て遙拜式を行ふ
十七日　木曜　聖上陛下大阪より還幸し給ふ。
全校職員生徒謹んで奉送申し上ぐ
二十二日　火曜　全校實力考査施行
二十五日　金曜　教練査閲施行さる

○十　二　月

二　日　金曜　第五時第六時限に豊田潔臣先生の御講演あり
八　日　木曜　米原小學校に於て本校同窓會地方連絡會開催
十　日　土曜　愛知川小學校に於て同窓會地方連絡會開催
十四日　水曜　本日より學期末考査開始。新築講堂の基礎工事開始
十九日　月曜　學期末考査終了
二十日　火曜　第四學年實彈射擊施行
二十二日　木曜　講堂に於て由良哲次教授の講習會開催。第一、二學年野外演習
二十三日　金曜　第六時限に全校講堂に於て花澤少佐琵琶を聞く
二十四日　土曜　閱團分列式、終業式擧行

校友會各部役員

◇學藝部
部長　寺川先生
理事　居井先生　藤田先生
委員（五年）夏川文二郎　小林弘
（四年）中村弘　山本高治郎
（三年）島井澄　國枝理

◇雜誌部
部長　笠井先生
理事　平井乙先生　大崎先生　寺川先生　千原先生
委員（五年）上松信一　田中整治　多林慶藏　竹内禪眞
（四年）杉橋均吾　北川三津男　田澤清一　大森德三
（三年）田中卷太郎　上田良平

◇圖書部
部長　松田先生
理事　竹下先生　今野先生　大崎先生
委員（五年）郡田浩次　横山正一　島津富男　塚原英夫
（四年）建部俊夫　西垣正勝　滿島啓二　相場德三
（三年）藤村吉平　石橋靖弘　有川幸久　都築一郎

◇武道部
部長　笠井先生
理事　村山先生　內田先生
委員（五年）大西三朗　山本源一　山口隆爾　加藤伊太郎
（四年）橋本末藏　平居龍太郎　西村久雄　島本良三
（三年）西島輝夫　細野德太郎

◇端艇部
部長　宮原先生
理事　薄木先生　渡邊先生
委員（五年）西田亮三　久木彌惣八　加藤秀夫
（四年）河合芳章　松本清　金子裕
（三年）野瀨元雄

◇野球部
部長　佐藤先生
理事　平井清先生　石坪先生　千原先生
委員（五年）松井敬三　布施一男　富士原正
（四年）原重信　小川福太郎　中川五郎
（三年）西川寛一　林寛

◇庭球部
部長　平井乙先生
理事　町田先生　藤田先生
委員（五年）北澤種雄　保坂信吉
（四年）箕田肇
（三年）前田多喜男　小林泰藏

◇競技部
部長　寺本先生
理事　小野先生　居井先生
委員（五年）三橋文男　柴田禮二　北川宗四郎
（四年）那須原邦男　藤本富雄　大橋義造
（三年）上池芳三　中溝孝太郎

◇水泳部
部長　白井先生
理事　後藤先生　渡邊先生　杉原先生
委員（五年）杉本典夫　西村平次郎
（四年）井口敏彥　藤本孫信
（三年）太田元夫　杉江太次郎

會計報告

昭和六年度校友會費收入決算書

費目	收入豫算額	收入決算額	過不足
前年度繰越	一、九二七、六五	一、九二七、六五	—
職員醵金	一七五、七八	一六六、七一	不 九、〇七
生徒醵金	三、八九四、〇〇	三、九六七、二〇	過 七三、二〇
新入會金	二六六、〇〇	二七二、〇〇	〃 六、〇〇
預金利子	六二、〇〇	五五、八二	不 六、一八
古艇庫オール賣却代其他雜入		四二、四〇	過 四二、四〇
計	六、三二五、四三	六、四三一、七八	〃 一〇六、三五

昭和六年度校友會費支出決算書

費目	豫算額	決算額	差額
端艇庫新築費積立	九一五、七九	一、三五六、一八	五九、六一
右本年度積立	五〇〇、〇〇		—
學藝部	五〇、〇〇	五〇、〇〇	—
圖書部	二八三、〇〇	二八三、〇〇	—
雜誌部	三〇〇、〇〇	三〇〇、〇〇	—
武道部	三八六、〇〇	三八六、〇〇	—
野球部	六八六、〇〇	六八六、〇〇	—
端艇部	六八六、〇〇	五四八、九四	一三七、〇六
庭球部	三四四、〇〇	三四四、〇〇	—
競技部	二一五、〇〇	二一四、四七	五三
水泳部	一五五、〇〇	一五四、〇三	九七
陸上運動大會	二一五、〇〇	二一〇、二五	四、七五
運動場修繕費	一五〇、〇〇	一五〇、〇〇	—
園藝費	一五〇、〇〇	五二、六一	九七、三九
衛生費	五〇、〇〇	八、二〇	四一、八〇
道具費	一五〇、〇〇	一〇八、五五	四一、四五
遠足費	五〇、〇〇	三二、一七	一七、八三

費目	豫算額	決算額	差額
賞品費	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	—
卒業式費	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	—
雜費	三三〇、〇〇	二六二、〇六	六七、九四
五十年記念式費積立	一〇〇、〇〇	—	一〇〇、〇〇
豫備費	四〇九、六四	二四八、三一	一六一、三三
計	六、三二五、四三	五、五九四、七七	七三〇、六六

昭和七年度校友會費收入豫算書

費目	豫算額	備考
前年度繰越	八三七、〇一	
職員出資	一六四、八九	四月實收一四九九の十一ヶ月分五百九十名平均十一ヶ月分
生徒出資	三、八九四、〇〇	
新入會費	三一四、〇〇	四月實收による
預金利子	五五、八〇	前年度額による
計	五、二六五、七〇	

昭和七年度校友會費支出豫算書

費目	支出豫算額	備考
五十周年記念式費繰越	一〇〇、〇〇	
同本年度積立	一〇〇、〇〇	
端艇新造費積立	五九、六一	
同本年度積立	一〇〇、〇〇	
學藝部	五〇、〇〇	
圖書部	二八三、〇〇	
雜誌部	三〇〇、〇〇	
武道部	三八六、〇〇	
端艇部	六八六、〇〇	
野球部	六八六、〇〇	
庭球部	三四四、〇〇	
競技部	二一五、〇〇	
水泳部	一五五、〇〇	
陸上運動大會	二一五、〇〇	
運動場修繕費	三五〇、〇〇	
園藝費	一五〇、〇〇	
衛生費	五〇、〇〇	
道具費	一五〇、〇〇	
遠足費	五〇、〇〇	
賞品費	一〇〇、〇〇	
卒業式費	一〇〇、〇〇	
雜費	三三〇、〇〇	
豫備費	三〇六、〇九	
計	五、二六五、七〇	

上松信一

いたづらもの〻木枯が、枯れた裏手の農園をかすめ過ぎる時、シュン〳〵となぎる古風は釜の音を聞きつ〻こ〻に校友會誌第四十二號を校正整理する。

×

青年の若き熱情、心の内に滿ち溢れる思想感情が、ペンを

通して外に表はれる時、詩となり、創作となり、又論說小說となる。諸君の研究、感想、体驗等が皆、此の校友會誌の血となり肉となる。會誌は我等のものだ。各校友會員、それ自身が內容豐富であれば、又自然と會誌自身秀れたものとなる故に我等はお互として唯一の感想、意志發表機欄たる此の會誌を充分に利用したものである。まだ諸君は利用不充分である。提出に臆病である。我等の程度を知る一種のバロメーターである校友會誌を、充分に利用する事、それは我々生徒の向上發達を意味する。諸君よ更に立派な作品をどし〴〵提出されよ。

×

校長先生初め先生方の玉稿を戴いた事は、我等の厚く感謝する所であります。研究に關しての論文も大分多くなつた事を深く喜びとします。我々の尊き研究記錄、眞劍な研究努力之にこした尊い記錄はない筈です。更にすぐれた物の現れを祈ります。創作が今年は非常に少ない樣です。我等の獨創を以て自由自在に驅馳する分野それが創作です。諸君の優れた頭腦を以て立派に創作し表現して下さい。

×

光榮の御親閲。萬世一系の　至尊の御姿を眼前に拜し、只感激の至りです。非常時。內外多事。山中鹿之助は月に天下の動亂を祈つたと云ふ事です。日本は偉大な人物を要求してゐます。諸君よ奮ひ起たう。惰弱を排し、質實剛健につかう日本の爲めに赤鬼魂を天下に示す時は來たのだ。斯くの如き時代に生れた我等は、深く生き甲斐を感ずるのである。

×

秀麗なる西江洲の比良に對するのも、伊吹の銀嶺を仰ぐのも金龜の白堊の下に筆をとるのも、後幾何。我等去る者又なす所がなかつたのを深く謝すると共に、在學生諸君の、一中をして眼れる一中たらしめざるやう、熱心なる活躍を祈る。

さらば諸君、健在なれ

投稿の注意

○投稿者は所定の原稿用紙を用ひられたい。
○原稿には年級姓名を明記し、各種類に依り別紙に認め、雅號匿名は許さない。
○點、丸、括弧等は一字に算入する。
○他人の名譽を毀損し、論の政治的時事に涉るものは採用しない。
○投稿締切期日は必ず嚴守すること
○原稿の採否は凡て雜誌部々長及び理事の鑑識の範圍とする。
○原稿の返戻は一切應じない。

明治廿七年五月三十日內務省認可
昭和八年三月一日印刷
昭和八年三月七日發行
【非賣品】
發行所　滋賀縣立彥根中學校　校友會
代表者　滋賀縣立彥根中學校內　笠井久
印刷者　滋賀縣彥根五番町六二ノ一　村下斯康
印刷所　滋賀縣彥根五番町六二ノ一　村下印刷所